

## 式 辞

校庭の木々の蕾もほころび始め、春の訪れが感じられる今日の佳き日に、八幡浜市長大城一郎様、PTA会長川里幸治様をはじめ、来賓の方々のお臨席を賜り、愛媛県立八幡浜高等学校、令和五年度卒業証書授与式を執り行うことができませんことは、卒業生はもとより在校生、教職員一同にとりまして大きな慶びであります。

ただ今、卒業証書を授与された一七七名の皆さん、卒業おめでとうございます。本校での学びを終え、この学び舎から巣立っていく皆さんの門出を心より祝福いたします。

さて、ここで皆さんの高校三年間の歩みを振り返ってみたいと思います。令和三年四月九日、新たな学校生活への期待と不安を胸に、皆さんは、本校体育館で入学式に臨みました。その後、クラスで新しい仲間との顔合わせを行いました。様々な学校行事や部活動などを通じて同級生や先輩との絆を深めていきました。当時はコロナ禍であり、感染防止のため、普段の教育活動においても種々の制約が設けられていました。そのため、自分の考えているような学校生活を送られず、もどかしい思いを抱いた人がいたかもしれません。

しかし、皆さんは、そういった環境にもいち早く順応し、日々の授業や部活動などに真摯に取り組みました。二学期に行われた体育祭では、各ブロックの仲間と共に、一つの目標に向かって競い合う充実感と達成感を味わったことと思います。

二年生になると、進路希望に応じたクラス分けが行われたり、進路に応じた授業が行われたりします。今まで漠然と考えていた自分の将来を、このころから真剣に模索し始めた人が多かったのではないのでしょうか。また、終わりの見えないコロナ禍の中で、将来への不安や日常のストレスを抱えて生きづらさを感じた人がいたかもしれません。

逆境の時ほど、その人の真価が問われます。百年に一度と言われるパンデミックを経験した皆さんは、様々な困難や試練に直面しながらも、持ち前のバイタリティーと粘り強さでそれらを克服しました。その経験は、今後の人生に生きてくるでしょう。

三年生になり、最上級生になった皆さんは、高校生活の有終の美を飾るべく、部活動や学校行事などに全力を注ぎました。そういった皆さんの背中を見て、一・二年生も先輩の意気込みや覚悟を感じとったのではないのでしょうか。

今年度で創立百二十三年目を迎える本校は、そういった生徒の日々の営みが脈々と受け継がれて今日に至ります。

学校の文化や伝統は、皆さんの先輩方が長年にわたって築き上げてきたものです。そこに、皆さんの三年間の営みが新たに加わり、次の世代へと受け継がれていきます。

今、国内外では、経済格差の拡大や領土を巡る紛争、自然災害の増加など、様々な問題や課題が見受けられます。さらに、AIに代表される技術革新は、私たちの想像を超えるスピードで進んでおり、これまでの生活スタイルや社会の在り方をも変える可能性を秘めています。

では、そういった変化が激しく、将来の予測が困難な時代に必要なものとは何でしょうか。私は、本校が掲げる五綱領こそ、今の時代に求められているものだと思います。

勉学、生涯を通じて学び続ける。礼儀、常に相手への礼儀を忘れない。健康、心身の健康に留意する。融和、周囲との融和を心掛ける。奉仕、互いを思いやり、奉仕の精神を発揮する。

以上のことを念頭に置くとともに、これまで皆さんを育ててくれた保護者等や地域に感謝の念を抱きながら、今後の人生を歩んでください。皆さんのこれからの活躍と健勝

を、在校生、教職員一同お祈りしています。

終わりにりましたが、保護者等の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様の健やかな成長を願って見守ってこられた皆様には、さぞかし御苦勞も多かったことと思います。また、今日の晴れの日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお慶びを申し上げますとともに、今日まで本校にお寄せいただきました御支援と御協力に深く感謝いたします。

お子様の御卒業で、本校との縁はいったん切れますが、同窓生の保護者等として、今後とも本校を見守ってください。

以上、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念いたします。式辞といたします。

令和六年三月一日 愛媛県立八幡浜高等学校長

上田 正弘